

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立仲六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成 果

- ・話し合い活動などを繰り返し行うことで、話し合いの楽しさに気付き、他教科での話し合いにも生かす様子が見られた。(3年)
- ・物語を読み、感じたことや考えたことを共有するための話し合いの時間を多く設けたことで、様々な考えや読み方があることを知り、登場人物の心情や文章の要点を読み取る力が伸びた。
- ・分からない言葉を、辞書などを引いて調べる習慣が身に付いてきた。(3、4年)
- ・単元の導入では、学習のねらいとゴールイメージを共有したことで、学習に見通しをもち、意欲的に取り組むことができた。(5年)
- ・漢字ドリルの学習と、漢字の小テストを習慣化したことで、漢字の読み書きの知識が定着した。(6年)
- ・説明文では、筆者の意図と対話することを常に目標の1つにして学習したことで、筆者の文章構成の工夫や、主張などを読み取る学習が主体的にすすむようになった。(6年)

(2) 課 題

- ・文章を書く力が身に付いておらず、課題である。
- ・既習漢字の定着が不十分である。
- ・辞書などで言葉の意味を調べる習慣が身に付いてきたが、調べるだけで終わってしまい、活用できていない。(3、4年)
- ・効果的な話し合いや自分の考えを整理して発表することが苦手である。
- ・筆者の意図を読み取っても、それを活用して表現する力が不十分である。(5、6年)

2 大田区学習効果測定の結果について

(1) 達成率（同一集団の経年変化）

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
第4学年	・目標値を大きく下回る「文章を書く」が課題である。「漢字を書く」が「漢字を読む」より無解答が多く、目標値に届いていない。	・目標値を大きく下回る「文章を書く」や「説明文の読み取り」が苦手。また、文章を読み、中心となる語を見つけることが課題である。	・目標値を大きく下回る「文章を書く」が課題である。
第5学年	・目標値をわずかに下回る。「文章を書く」「漢字の読み書き」を課題としている。	・目標値をわずかに下回る。「言葉の学習」「説明文の読み取り」を課題としている。	・目標値をやや下回る「漢字の読み」「文章を書く」を課題としている。
第6学年	・目標値をわずかに上回るが、特に「話すこと・聞くこと」には課題がある。	・目標値をわずかに上回るが、活用問題には大きな課題がある。	・目標値をわずかに下回るが、「漢字を読む」「漢字を書く」に課題がある。

(2) 令和5年度の結果分析（観点別）

・4 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字は読めるが、書くのが苦手である。また、主語と述語について捉えることが苦手な児童が多い。 ・資料を正しく読み取り、自分の考えをまとめて書く習慣を身に付けさせる必要がある。	・物語の読み取りにおいて、登場人物の気持ちの変化を、具体的に想像することが苦手な児童が多い。 ・自分の考えとそれを支える事例との関係を捉えて、文章を書く力も弱い。	・「文章を書く」の問題において、無回答の児童が4分の1いた。



・ 5 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「漢字を書くこと」が苦手である。また、「言葉の学習」では、語句の役割の理解が不十分である。 ・「文章を書く」が弱い。文章の中で漢字や語句を使い、文章を書く練習が必要。	・「説明文の内容の読み取り」に課題がある。段落の役割を理解し、文章の要点や要旨を考えながら読み取る力を身に付けさせたい。	・「文章を書くこと」「パンフレットをもとに話し合う」で無回答が目立つ。問題を読み取る習慣、課題に粘り強く取り組む力が課題。

・ 6 学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「漢字を書くこと」「文章を書く」が弱い。漢字の学習や文章を書く習慣化が必要。	・例文をもとに書き直す力が特に弱い。文章の構成を考えて、文章を整え直す力をつけさせたい。	・無回答が目立つので、粘り強く問題に取り組む力が必要。

3 授業改善のポイント

・ 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 年 ・話し方名人、聞き方名人のように掲示物を効果的に活用し、繰り返し指導することで、話し方・聞き方を日常的に身に付けられるようにする。 ・毎日のノート記録や振り返りを行う際に、助詞「は・を・へ」を正しく使えるように指導をする。 ・新出漢字の学習は、「とめ」「はね」「はらい」及び書き順を丁寧に指導し、文字の形に気を付けて練習させ、定着を図る。 2 年 ・音読カードを活用し、上達ポイントを押さえながら練習させる。 ・新出漢字は毎日一字ずつ学習し、家庭学習でも習った漢字の練習を行う。 ・日常的にスピーチ活動を行い、話し方、聞き方を身に付けられるようにする。話すポイントを明確にし、話型を示し話しやすくする。聞き手は、スピーチをしっかりと聞いて、質問や感想を行う。	1 年 ・読む力を伸ばすために、場面の様子に気付いたり、想像を広げたりできるように、動作化、劇化などの表現活動の場を多く設定する。 ・書いたことを読み合ったり、よいところを見つけて感想を伝え合ったりする活動を取り入れる。  2 年 ・文章の内容を自分の経験や考えと結びつけて考え、発表し合うことができるようにする。 ・大事なことを落とさないで聞くことができるようにするために、クイズなどを取り入れ、活動を工夫する。 ・「今週のニュース」として出来事や心に残ったことの記録を書くことで、書くことへの親しみにつながっていくようにする。「いつ」「どこで」「誰が」「どうした」などを意識させる。 ・完成した作品を読み合う時間を確保し、内容や記述の仕方などで友だちの良さを見つけ、伝えられるようにする。	1 年 ・いろいろな種類の本の読み聞かせを行い、読書の楽しさを実感させる。また、朝読書や図書の時間などで十分な読書の時間を設ける。 ・音読カード、ひらがな・カタカナ・漢字練習などの家庭学習に、継続的に取り組ませる。 2 年 ・朝読書や、図書の時間に読み聞かせを行う。読書カードを活用し、読書への意欲を高める。 ・物語文では、積極的に動作化を取り入れ登場人物の気持ちや場面の様子を読み取る。

・ 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3 年 ・「はじめ、中、終わり」の文章構成を意識することができるようにする。 ・反復学習や小テストを定期的に行い、漢字の定着を図る。 ・読書活動を充実させ、語彙を増やすことができるようにする。 4 年 ・漢字の読み書きを定着させるため、朝学習などを活用したり定期的に漢字小テストを行ったりする。 ・文のつながりを意識して読めるよう、音読の仕方を工夫する。 	3 年 ・文章を読んで感じたことや考えたことなどについて話し合う時間を設け、一人一人の感じ方には、共通点や違いがあることを理解できるようにする。 ・書こうとしたことが、読み手に明確に伝わっているかなど互いの文章の良さを見つけられるようにする。 4 年 ・主語と述語の関係性や、段落ごとの役割などを捉えられるよう、教科書に線を引いて音読する。穴埋めのワークシートを活用し、読み取った内容を常態や敬体など様々な形でまとめることができるようにする。 ・物語や説明文、パンフレットなどを要約する練習をして、要点を抑える力を伸ばす。	3 年 ・辞書引きや言葉集めの活動に取り組んだり、読書活動を計画的に行ったりして、新しく知った言葉を短冊やノートなどにまとめる。 ・ビブリオトークなどおすすめの本を紹介し合う機会を設定し、自分の考えをまとめ、表現する力を高める。 4 年 ・各単元の最後に言語活動を設定し、学習内容の定着が深まるようにする。

・ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 年 ・意味の分からない言葉は、国語辞典を引く習慣を身に付けさせ、語彙を増やしていく。 ・ドリルや小テストを繰り返し行い、漢字やローマ字の定着を図る。 ・文章を書く時間を多く設け、その中で習った漢字を活用して知識の習得へつなげる。 6 年 ・新出漢字を確実に覚えるために、漢字ドリルや小テストを活用して、習熟を図る。 ・「書く」単元では、書いた文章について自分や他者と十分に推敲する時間をとったり、文章の交流を行ったりして、自分の文章について加除訂正ができるようにする。 ・話の目的に応じて、話の内容を捉え、内容を明確にするため、話し手の工夫を捉えさせる文法、語句に関する知識を定着させる。	5 年 ・説明文では、段落や構成など、文のまとまりを考えながら読むことを意識させる。 ・文章全体の構成や書き表し方に着目して、文章を整える。 ・話し合い活動では、目的を明確にし、自分と友達の考えの相違点や共通点を見付け、考えを深められるようにする。 6 年 ・文章全体の構成や展開の明確さなど、互いの良さを見付ける。 ・どのように描かれているのか表現に着目させる。 ・説明文の単元では、筆者の文章構成の工夫を読み取り、どんな効果や意図があったかまとめたり、まとめたものを掲示して、自分で活用できるようにしたりする。	5 年 ・朝学習や授業の最初に音読の時間を設け、漢字の読みや語彙を高めていく。 ・単元の導入では、学習のねらいとゴールイメージを共有し、見通しをもって学習できるようにする。 6 年 ・単元の導入では単元のゴールイメージを共有し、何を学びどんな力を付ける学習か児童と合意形成を図る。 ・学習計画を自分で立て、毎時間ごとに振り返りながら、学習を自身でマネジメントしていく。 